

平成 21 年度日本財団助成事業

「親子の絆、地域との絆を深める」

体験プログラムモデル事業

プログラム事例集



目次

はじめに	1
会場ごとのプログラム事例	3
開催会場一覧	5
宮城県会場	6
埼玉県会場	8
東京都（渋谷区）会場	10
東京都（品川区）会場	12
東京都（新宿区）会場	14
東京都（港区）会場	16
石川県会場	18
愛知県会場	20
三重県会場	22
滋賀県会場	24
奈良県会場	26
山口県会場	28
徳島県会場	30
愛媛県会場	32
佐賀県会場	34
長崎県会場	36
熊本県会場	38
宮崎県会場	40
アンケート集計	43
参考資料	47

はじめに

「親子の絆、地域との絆を深める」体験プログラムモデル事業は、財団法人日本船舶振興会平成 21 年度の助成を受けて、社団法人日本ネイチャーゲーム協会が取り組んだ事業です。

子どもたちの感性や価値観は、主に人間形成の基礎を培う幼児期における様々な体験や、親との関わり、他者との関わりの中で育まれます。

しかし、一人親や共働き家庭の増加で、子どもと関わる十分な時間がとれない親が増えてきたことから、子どもたちの体験不足が増加する一方、しつけや教育の仕方がわからない、相談する相手がいないなど、地域との関わりの希薄化を要因とする、孤立した子育てにも拍車がかかっています。

ネイチャーゲームはさまざまな感覚を通して自然を直接体験する自然体験プログラムです。いつでも、どこでも、身近な自然で気軽に体験できることが特徴で、その汎用性の高さから、小学校での授業や、子ども会や児童館での活動、または高齢者施設のプログラムの中など、とても幅広い分野で活用されています。

そこで本事業では、こうしたネイチャーゲームのノウハウや特徴を活用しながら、幼児とその親を対象に、地域の自然や文化をベースとした「親子の絆、地域との絆を深めるための体験プログラム」を開発し、子どもには自然とふれあう機会、地域への郷土愛や伝統文化、先人の知恵などの体験の場を、親には子どもとの関わり、地域との関わりを促す場をもって、強い絆で結ばれた地域社会の創造を目指すことを目的に実施しました。

自然の中にある美しさ、不思議さ、面白さ、人を癒す力や、ネイチャーゲームや他の自然体験活動プログラムの持つ楽しさ、夢中になれる流れ(展開)、人と人をつなぐ力を組み合わせたプログラムの実践ができました。

それぞれの対象や環境等の状況にあわせて、ここに紹介する事例をアレンジしていただき、より多くの子どもたちが保護者と一緒に地域の身近な自然とふれあう機会を持ち、その課程を通して親子の絆、地域との絆を深める一助になれば幸いです。

社団法人日本ネイチャーゲーム協会

平成 21 年度日本財団助成事業
「親子の絆、地域との絆を深めるプログラム事例集」

1. 会場ごとのプログラム事例

※各会場実施プログラム中で < > で囲まれている活動はネイチャーゲームアクティビティであることを示しています。

開催会場一覧

都道府県 市区町村	会 場 名	開催日時	参加者数		
			子ども	大人	合計
宮城県 仙台市	海岸公園冒険広場	2009年11月13日(金)	13	12	25
埼玉県 狭山市	智光山公園	2009年12月5日(土)	19	13	32
東京都 渋谷区	代々木公園	2008年5月12日(火)	55	55	110
東京都 品川区	都立林試の森公園	2009年5月15日(金)	55	55	110
東京都 新宿区	大久保幼稚園	2009年6月24日(水)	50	50	100
東京都 港区	白金台幼稚園	2009年6月28日(日)	30	20	50
石川県 羽咋市	こすもす保育園	2010年2月13日(土)	29	24	53
愛知県 瀬戸市	愛知県海上の森センター	2009年12月12日(土)	32	28	60
三重県 四日市市	三重県環境学習情報センター	2009年6月21日(日)	9	7	16
滋賀県 東近江市	愛里保育園(河辺いきものの森)	2009年10月7日(水)	21	21	42
奈良県 大和高田市	奈良文化女子短期大学附属幼稚園	2009年12月2日(水)	58	54	112
山口県 山口市	山口県セミナーパーク	2009年9月22日(火)	21	21	42
徳島市 阿南市	津乃峰保育所および塩釜神社	2009年12月9日(水)	25	25	50
愛媛県 松山市	松山総合公園・考古館	2009年10月25日(日)	18	13	31
佐賀県 鹿島市	鹿島市海童保育園・浜宿及び臥竜ヶ岡公園	2009年9月5日(土)	14	14	28
長崎県 長崎市	シビックホール	2009年10月18日(日)	19	10	29
熊本県 氷川町	立神峡里地公園	2010年2月7日(日)	22	23	45
宮崎県 綾町	創造の森	2009年11月14日(土)	43	27	70
合計			533	472	1,005

宮城県 仙台市 会場

開催日	平成 21 年 11 月 13 日 (金 曜日)
開催会場	海岸公園 冒険広場
行事参加者数	親子 11 組 23 名 (内訳: 大人 12 名 子ども 13 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	なし

当日のプログラムのテーマやねらい

- ・ 秋の実りを楽しもう
- ・ 親子のふれあいを図り、身近な自然に親しみ、秋の味覚を楽しむ

実施プログラム

時 間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、 言葉がけなど
10:30	集合 はじめのあいさつ リズムあそび 『どうぶつ体操』	・ 開会の挨拶・スタッフ紹介 ・ アイスブレイキング	・ 親子の緊張をほぐすように楽しく行えるように工夫した
10:45	<ノアの箱舟>	・ 他の親子と交流を図るために、動物のものまねをしながら同じ仲間を見つけるようにし、グループづくりをした	・ 子どもなりの動物のイメージをのびのび表現できるように声をかけた
11:00	<宝さがし>	・ 親と子、親と親、子と子のふれあいを意識して、さまざまな感覚を使った自然の宝探し	・ ノアの箱舟でペアになった親子2組で、1グループになってもらい活動
11:40	いい匂いはどこだ 焼き芋見~つけた	・ 宝さがしの最後に焚き火のにおいで火のところに行き、今日みんなのごちそう<焼き芋>を食べる	・ 子どもの臭覚と味覚を伝えるように工夫した。「焚火のにおいはどんなにおい」など、焼き芋の匂いや色にも目を向けてもらうように声をかけた
12:00	解散	・ アンケート記入	

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある 2人	たまにある 3人	あまりない 3人	ほとんどない 0人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんで いた 2人	楽しんで いた 6人	つまらな そうだった 0人	やり方が理 解できな かった 0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のでき ない(表情や動き、言葉など)はありま したか？	あった 7人	特にな かった 1人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身 の感想をお聞かせください。	とても 楽しめた 4人	楽し めた 4人	つま らな かった 0人	やり 方が 理 解 でき な か っ た 0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケー ションを深めるための機会として、今 回のよう なプログラムは有効だと思いますか？	思 う 8人	思 わ な い 0人		

参加者（保護者）の声

- ・ こどもが濡れている草の上を楽しそうに転がっていたの驚いた
- ・ ドングリをみつけて喜んで
- ・ 1歳6か月の小さな子も一緒に楽しむことができた
- ・ 親子で自然をよく見た

成果

- ・ どの親も子どもに話かけている姿がよく見られた
- ・ 母親から、「親が楽しめ、いい気分転換ができた」と話をされた
- ・ 「落ちていたドングリを拾ったことはあったが、木についているドングリを見たのは初めて」と母親から言われた
- ・ 子どもの方がいろいろな物を見つけたりするのが早く、親も子どもの違う一面を認識した様子が伺えた
- ・ 孫を連れて参加してくれたおばあさんが、若い母親に話しかけてくれていて、母親同士の交流の促進になった

課題

- ・ 参加した幼児の年齢の幅が広く（下は1歳6か月、上は4歳）、発達の違いを意識しながら説明も工夫して行ったが、まだまだ検討する必要があった
- ・ 天候が悪く、事前に雨でも外で活動することを伝えていたが、薄着の親子がいたので、寒くない工夫をする必要があった。

活動の様子



どんぐりの宝もの



焼き芋がやけたよ

埼玉県 狭山市 会場

開催日	平成 21 年 12 月 5 日 (土曜日)
開催会場	智光山公園
行事参加者数	親子 11 組 32 名 (内訳: 大人 13 名 子ども 19 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	なし

当日のプログラムのテーマやねらい

身近な自然の中で、遊びを通して親子のコミュニケーションを促す。親子の絆を深める。活動を通して親子同士のつながりをつくり、地域での仲間作りにつなげる。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
9:00	集合・挨拶	開会の挨拶。スタッフ紹介	帽子などスタッフがわかりやすいように。
10:10	くっついた くっついた	親子で、いろいろな動物に変身する活動を通して、親子でのスキンシップにつなげた	一対一でなくても大丈夫なことを伝える。
10:15	じゃんけん列車	他の家族とのふれあえるようコミュニケーションを促すことをねらったジャンケンゲーム。ジャンケンに負けた人が勝った人の後ろに並び、先頭同士がジャンケンを続けることで、一つの電車をつくる。	兄弟のいる場合などは、子どもの様子によりスタッフがペアを組む
10:25	はっばの焼き鳥	はっばを串にさし焼き鳥作りをした後できた作品を見せ合ったりしながらより他の家族とのコミュニケーションをはかるとともに、協力、信頼関係につなげた	他の親子とじゃんけんをすることにより、少しでも会話をしたり、ひとつの輪になることで一体感を感じてもらう。
10:35	<ごちそうはどこだ>	グループに分かれてドングリを隠し、お互いに探し合いっこすることで、親子、チームの人たちとの協力を促した。またリスの生態(貯蓄)を楽しく疑似体験し、動物と木の実の関係を学ぶ。	初対面の方の集まりなので、場を安らぐ雰囲気作りを意識した
11:00	<フィールドビンゴ>	「きのみ」や「ぬけがら」など自然の宝ものを探すビンゴゲームを通して、親子で楽しみながら、いろいろな感覚を使って宝探しをする。	見つけにくいものに対してはアドバイスをする。
11:20	クラフト	今日の活動の思い出として残るように自然物を使ったクラフト(どングリ)を使ってのペンダント・キーホルダー作り・拾った葉などを使ってのカード作成)を実施。親子での会話を楽しんだり、公園に遊びに行くきっかけにしてもらえるようにする。	説明のときに、どんな抜け殻があるか例を出す。探している親子の様子を見ながら話しかけわかりにくいものにはヒントをだしてみる。
12:00	おわりの挨拶 解散	今日の活動をふりかえり、わかちあい。	見本のほかに、子どもたちが工夫できるように文具を用意 作成したカードは、後日(半年後)郵送し活動を思い返す機会とする

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある 2人	たまにある 3人	あまりない 4人	ほとんどない 1人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいた 4人	楽しんでいた 4人	つまらなそうだった 2人	やり方が理解できなかった 0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった 4人	特になかった 4人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた 4人	楽しめた 5人	つまらなかった 0人	やり方が理解できなかった 0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う 10人	思わない 0人		

参加者（保護者）の声

- ・メモに「楽しいね」と書いて手紙をくれました。
- ・狭山市には、幼稚園前と小学生の集いは、よくありますが幼稚園児対象にしたものは少ないので今回はとてもよかった。
- ・このような機会がないと自然の中での遊びは思いつかないのでとてもよかった。
いつもと違う遊びができました
- ・自然物のクラフトがよかった。

成果

- ・自然の中での遊び方を知ってもらえた。
- ・親子でいしょに楽しめた。
- ・地域の中で、知り合いができた。
- ・みんな（集団）での遊びの楽しさを知ることができた。

課題

- ・幼児対象会を一回だけではなく、これからも継続させていきたい
- ・実施場所がわかりにくかったので、申し込み者に対しては改めて要綱を送付したほうがよかった。

活動の様子



落ち葉を枝にさして、やきいも作り



<ごちそうほどこだ>各グループの成果を見せ合っているところです

東京都 渋谷区会場

開催日	平成 21 年 5 月 12 日 (火 曜 日)
開催会場	代々木公園
行事参加者数	親子 55 組 110 名 (内訳: 大人 55 名 子ども 55 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	愛育幼稚園

当日のプログラムのテーマやねらい

親子親睦遠足を兼ねて親子で身近な自然を楽しむことを通して親子間の交流を促進
保護者同士の交流の機会(きっかけ)をつくる

実施プログラム

時 間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、 言葉がけなど
09:00	代々木公園原宿門集 合 公園内芝生広場まで 移動	園長あいさつ	
09:20	はじめの導入 かんかくを使おう	フィールドビンゴの前準備と して、見る、聞く、触る、感じ る感覚に意識が向かうような 言葉がけを行う。	幼児でもわかるような、簡単に短 く明確な言葉がけを意識した。
	<フィールドビンゴ >	探すアイテムをリーダーが発 表し、 親子で協力しながら各自のカ ードに記入していく 身近な自然を題材として、その 自然に近づきさまざまな感覚 で感じることをねらいとする。	ビンゴフリー(F)カードを使用し て書かせるところから活動とする カードの下に穴を開け、幼児は幼 稚園で用意してもらったひもにカ ードを通し、カードを手で持って いなくてもよいように。首からぶ らさげる工夫をした。 探すアイテムは大きな紙に書いて 提示した
10:20	いろいろなしげんと いろいろなかんかく	フィールドビンゴのわかちあ いを兼ねて、自然の面白さ、多 様さに気づく。参加者それぞれの 価値観の違いにも気づく。わか ちあいを通じて他者のと交流 のきっかけとする。	感じた事をできるだけたくさん声 に出してもらえるように、またお 互いの交流が促進しやすいように リーダーや教員も各グループに入 り積極的に声をかけるようにし た。 他の家族が見つけたものや自分た ちのみつけたものとの違いやそれ ぞれが感じた面白さや興味、探し たものへの着眼点の違いなどがあ ることに気づけるような言葉がけ を心がけた。
	締めくくり 体を動かそう	親子一緒にふだん園で行われ ているダンスを実施	
12:00	昼食 終了	お弁当を食べる 解散	

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	14 人	24 人	15 人	0 人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	29 人	24 人	0 人	0 人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	28 人	22 人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	29 人	24 人	0 人	0 人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	53 人	0 人		

参加者（保護者）の声

- ・ 季節を肌で感じ観察でき、とても勉強になりました。“生”というものを改めて感じる事ができた。
- ・ 子どもの発想は大人の考えるものとはちがう面がみられ、ほほえましかった。
- ・ ゲームにすることで、注意深く一生懸命自然観察ができて大変よかったです。
- ・ 見つけると感動して他の友人に伝え見せていた。
- ・ グループが多いと、まだむずかしい年齢かなと思いました。少人数でまた楽しませていただきます。
- ・ 普段嫌がってやらないこと（地面にはいつくばる等）をしていた。
- ・ 何度か体験しているせいか、幼稚園のお友だちとだと一生懸命探そうとしていない感じが。親としては、その時その時の感覚や体感するものを大切にしてほしいのですが・・・
- ・ 友だちやママたちと、指導者の方に誘導して頂いてのシチュエーションが、子ども、親、両方にとっていいようです。

成果

- ・ 園外での活動は新鮮だったようで「親子での自然探検」が十分に楽しめた模様である。
- ・ この活動の前に幼稚園で「じかき虫さがし」をやっていたので、フィールドビンゴの本日のスペシャルは「じかき虫」に設定した。その名前をはじめて聞く母親たちには、当然何のことだかわからないようすで、あちこちで子どもたちから「じかき虫」についての説明を聞く母親の姿が見られた。これは親子間での会話が広がるように子どもたちが保護者に説明をさせることを意図的設定した演出であり、ねらいどおり親子間での会話が広がるきっかけとなっていた。
- ・ 日頃自然と接する機会の少ない保護者にとっても、今回のような身近な自然とのふれあいの機会は楽しかったようであり、また、「子どもと一緒に楽しめる」ことが、より満足度をあげる結果につながっていると思われる。

課題

- ・ お友だちと3～4人のグループを自由に組ませようとしたら、グループ作りだけで時間がかかり、もたついてしまった。集中力の短い幼児を対象とした活動の場合は、あらかじめグループ分け（できればわかりやすいように色分けはちまきなどを活用して）がされていると、無駄な時間をとられなくてすむのと同時に、プログラムの流れが途切れないだろう。
- ・ 今回の時間配分では、十分に保護者どうしの交流を深めるところまでは出来なかった。
- ・ 今回の事業テーマは視点が多く、欲張ったスタイルでの事業展開は逆に中途半端な結果となる可能性が高いので、ねらいや目的を絞ったスタイルで実施されるのが望ましい。

東京都 品川区 会場

開催日	平成 21 年 5 月 15 日 (金 曜 日)
開催会場	都立林誠の森公園
行事参加者数	親子 55 組 110 名 (内訳: 大人 55 名 子ども 55 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	品川区二葉すこやか園

当日のプログラムのテーマやねらい

身近な自然の中で、遊びを通して親子のコミュニケーションを促す。親子の絆を深める。
活動を通して親子同士のつながりをつくり、地域での仲間作りにつなげる。

実施プログラム

時 間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、 言葉がけなど
09:50	集合・挨拶	開会の挨拶。スタッフ紹介	
10:00	感覚の準備体操	見る、聞く、さわる、嗅ぐなどの 感覚の準備体操 リーダーの指 示にしたがって、さわったり、耳 をすましたりしながら、様々な感 覚を呼び起こす。	子どもが理解できるように、シン プルな指示をゆっくりと大きな声 で。
10:10	見える?聞こえる? においはするの?	我々をとりまく様々な自然に、感 覚を駆使して意識を向けるシン プルな活動 親子で協力しながら、その場で見 えるもの、聞こえるもの、におっ てくるものをあげ、その中で好き なものをきめてもらった。	親子で協力しながらさがせるよう に。
10:30	くしぜんのだいすき だいじさがし>	自然の中にある様々なものの中 から、リーダーの指示した自然物 をさがし、その課程の中で、自分 のお気に入りを探す活動。自分だ けでない、他者の価値観や、人間 以外の生き物などの役に立って いる事実などを楽しく学ぶ。活動 の中で、落ち葉の穴からお母さん お父さんの顔をのぞく、落ち葉の すべすべとほっぺのすべすべを 比べてみるなど、親子でのスキン シップにつなげた	間が延びないようにテンポ良く。 親子間のスキンシップと、保護者 同士のコミュニケーションが促進 されるように、他者(他の家族) と関われるような言葉がけ。 「隣の人はどうなものを拾ったか な」 「まわりの人とくらべてみよう。 どっちの方が大きいかな」 など
10:55	まとめ(だいじ)の話 し		
12:00	同一プログラムの後 半 おわりの挨拶 解散	自然界のつながりを簡単に説明	子どもが理解できるように、簡単 な言葉を選んでゆっくりと大きな 声で。

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	3人	7人	6人	2人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	10人	8人	0人	0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	12人	6人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	9人	9人	0人	0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	17人	1人		

参加者（保護者）の声

・お話をちゃんと聞いたり、見たりして指示どおり行動出来ている様子を見て、大変嬉しく思いました。

・直接見たり触れたり感じることは、本で知ることよりずっと子どもの胸に響いたのでは。

・親子共々楽しめた。好きなものを探すという時「ママは何がすき〜？」という何気ない質問が嬉しかったです。

・楽しかったが、工作まではいなくても、葉っぱや枝などでものづくりできると良かったです。

・あっという間に終わってしまい残念。もっと体を使った遊びも取り入れたらいいと思います。拾った葉っぱを持ち帰りがったが、虫などが食べる話に納得し戻した後、普段苦手な野菜を「食べるから用意してね」と言い出し、驚きました。

親以外の大人に探してきたものを楽しそうに見せている姿が、嬉しかった。

成果

・シンプルな活動でも親子で一緒に自然をたのしむことができることを伝える事ができた

・親子間でのスキンシップを促進することができた。

・プログラムを通して、保護者同士が知り合うきっかけや会話きっかけを提供する事ができた。

・幼稚園の先生も楽しみながら、こうした自然体験活動の手法を学ぶことができ、次回は先生たちの手で独自に展開できる可能性がある。

課題

・大人数での実践となった。自然物を探しに出かけるという活動内容なので、教員等スタッフ数が十分に配備できないような場合の安全対策について、考慮する必要がある。

また、都市公園ではガラス瓶の破片やペットの糞尿、不法粗大ゴミ、ホームレスなど、配慮すべき項目は多く、特にそうしたものへの判断力がまだ充分ではない幼児の場合は、子どもだけで探させることは避け、必ず親子一緒にもしくは保護者や先生、リーダーが統括する小さなグループで探しにでかけるようなルールを徹底したほうがよいだろう。

・今回の参加者には見られなかったが、親が積極的に参加しないような場合がたまに見受けられるので、積極的に保護者の方も参加してもらえようような声かけや雰囲気作りも大切である。

東京都 新宿区 会場

開催日	平成 21 年 6 月 24 日 (水曜日)
開催会場	大久保幼稚園
行事参加者数	親子 90 名 (内訳: 大人 40 名 子ども 50 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	新宿区立大久保幼稚園

当日のプログラムのテーマやねらい

親子で一緒に楽しく自然の中で遊ぶ 身近な環境の中での面白さに気づく
あわせて保護者間の親睦を深める
(雨天のため幼稚園のホールでの実施となった)

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、 言葉がけなど
9:50	はじまり あいさつ スタッフ 紹介 導入のはなし	リーダーと参加者(子どもたちとその保護者)のアイスブレイキングをかねて導入の話をする。お互いを知る。 これからの活動への心をつくる。 雨の話からだんだんと生き物の話しへ。	雨天のため、屋内での実践となったため、雨の話からはいっていき。 落ち着いた空間での実践のためゆっくりとした言葉がけを心がける。
10:00	生き物あてくノーズ > 年長クラスと年中クラスの2クラスにわかれて くみたねあったねさわったね>を実践	生きものにはさまざまな面白い特徴があることに気づく。 親子で協力して、答えを考える。親子で一組になることで会話を促す リーダーの出すさまざまなお題に当てはまる生き物カードを取ってくる。いくつかのお題のあと、正解の生き物を発表。親子で協力して集めたカードの中に正解の生き物がいるか。	幼児でもわかりやすい生き物に限定して、後のプログラムへの伏線となるような展開を意識。あまり長めにやって集中力をとぎれさせないように、短時間で行う。 字をかかなくてもよい活動なので、親子で生きものについてたくさん語れるような進行を意識した。 また、話すセリフ(お題)も可能な限りシート(フリップ)にして、小さな子どもでも視覚で理解してもらえるように工夫した
10:55	全体集合	保護者向けに最後のまとめのお話	自宅でも気軽に楽しむ事の出来る活動なので、そのポイントを解説。また、幼少期にさまざまな体験をすることの大切さ、自然への興味や体験を重ねることの重要性などもあわせてメッセージとして伝える。
11:20	終了		

参加者（保護者）アンケート集計/アンケート実施せず

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある -人	たまにある -人	あまりない -人	ほとんどない -人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでた -人	楽しんでた -人	つまらなそうだった -人	やり方が理解できなかった -人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった -人	特になかった -人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた -人	楽しめた -人	つまらなかった -人	やり方が理解できなかった -人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う -人	思わない -人		

参加者（保護者）の声

・自分が虫などが苦手なため、子どもにもさわってほしくないと思っていましたが、そんな考えがなくなりました。

・子どもと一緒に自然に対しての感性を感じ合えた事がとてもよかったです。親子ともども自然を見る目が養われたような気がします。こういう機会をもっと頻繁に催してほしいです。

・親子一緒に活動に参加する中で、一緒に考える過程を通していろいろな会話ができたのがよかったです。子どもでも結構いろいろ考えられるんだと発見しました。

・子どもが私よりも自然のことに詳しいことを知りました。こういった面をもっと素直に伸ばして行く為にも、もっと日常の生活の中で、こうした機会を持ちたいと思いました。

・共通した活動を一緒に体験するのは面白かったです。子どもの以外の一面を見る事ができましたし、他の親御さんのこともこの活動がきっかけとなって、知る事ができました。

・子どもの興味をいかにひきだせるかといった技を見させていただきました。とてもシンプルなプログラムの中に、いろいろと計算された演出みたいなものが感じられ、さすがだなと思いました。

成果

・問題や正解シートを出す瞬間はなぞなぞやクイズのようなワクワク感をつくることができ、子どもたちの注目度が高く、飽きずに集中した時間となった。

・親と子をペアにして、親のひざの上に子どもが座るスタイルをとり、そのペアで1チームとした。親子間でのスキンシップおよび、適度に親が子どもをフォローできるスタイルとなった。

・今回は試験的にいろいろとプログラムをつめこまないで、シンプルなアクティビティをゆっくりと時間をかけて実践した。とてもよい時間の流れとなった。

・雨天のため、屋内での実践となったが、特に問題はなく、逆に屋内でのプログラムとしても十分に活用できる可能性を感じることができた。

・保護者の方からの声から、今回は天候のため直接の自然とのふれあいはできなかったが、自然とふれあう機会、自然を学べる機会、そしてそうしたことを親子一緒に参加体験共有できるような機会についてのニーズが非常に高いように感じた。また、共通した体験を通して、親子間のコミュニケーションやスキンシップがはかれたり、子どもを介在するのではなく、活動を介在しての他者（子ども同士、親子間、親同士）との関わりが自然と生まれ、それぞれをつないでいくまさに「絆」を深める機会となる手応えを感じた。

課題

・本事業に向けてのトライアル的なプログラムとして実施しており、参加者の様子を見ながらの進行となった。実践の機会を増やし、プログラムのねらい、流れ、まとめまでの一連の流れを再整理し、より効果の高いプログラムに変えて行くことが必要。

東京都 港区 会場

開催日	平成 21 年 6 月 28 日 (日曜日)
開催会場	白金台幼稚園
行事参加者数	親子 50 名 (内訳: 大人 20 名 子ども 30 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	港区立白金台幼稚園

当日のプログラムのテーマやねらい

我が子と一緒に自然を体験し、自然とかかわる大切さや方法を体感する
園内の身近な自然に気づき、その面白さや魅力を知る。
体験を通して保護者同士のコミュニケーション促進のきっかけとする

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、 言葉がけなど
09:00	あいさつ スタッフ紹介 身近な自然への導入 の話し	フィールドビンゴへの意識が高まることをねらいとする	「自然って面白い」ことがわかるように、園内の自然をテーマに興味を引くような話しを導入として実施する。
09:20	前半プログラムパート 5歳児親子実践 ＜フィールドビンゴ＞ さがしたもののシェア リング	さまざまな感覚を使って、園内の魅力ある自然を親子で協力して探す。 お互いに見つけたもの、感じたことを発表し、それぞれの体験を深め定着化させる	探すアイテムをリーダーが発表し、親子で各自のビンゴフリーカードに記入していくところから活動とする。探すアイテムは大きな紙に書いて提示した 見つけたものの発表。自分が見つけたものや感じた事をうまく言葉にできない子がいたらうまくフォローするよう、各スタッフが事前共有。子どもたちの感想は（声が小さい子などもあるので）参加者全員で共有できるようにメイン指導者が繰り返して復唱するようにする。
10:10	後半プログラムパート 4歳児親子実践 ＜じかき虫の日記＞ さがしたもののシェア リング	園庭にもいる不思議な生き物への興味をそそり、自然への興味を高める。それぞれの想像を共有することでコミュニケーションのきっかけとする。 お互いに見つけたもの、感じたことを発表し、それぞれの体験を深め定着化させる	まずはこれから面白いことがはじまるような演出として紙芝居で導入を実施。これから探しにでかける不思議な生き物へ、子どもたちが感情移入できるような雰囲気。想像を膨らませてどんな生き物かイメージする段階では、保護者の方のイメージ
11:40	プログラムのおさらい 終了	プログラムのポイントのおさらい	も何人かにはなしてもらおう。 主に保護者に向けプログラムのポイントを解説。

参加者（保護者）アンケート集計/アンケート実施せず

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会はありませんか？	よくある - 人	たまにある - 人	あまりない - 人	ほとんどない - 人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいた - 人	楽しんでいた - 人	つまらなそうだった - 人	やり方が理解できなかった - 人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった - 人	特になかった - 人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた - 人	楽しめた - 人	つまらなかつた - 人	やり方が理解できなかった - 人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う - 人	思わない - 人		

参加者（保護者）の声

<p><当日の声から></p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても新鮮な体験でした。毎日見ている場所にも気づいていないことが多く、自然の面白さにはっとさせられました。 ・子どもたちが夢中になっている姿がとても印象的でした。私も夢中に探していました。 ・丁寧にゆっくりとしたテンポで進めていただいたので、どの子もみんなが楽しんでいたように感じます。ビンゴゲームはうちのまわりでも簡単に出来そうですね。こんどチャレンジしてみようかと思えます。 ・自然さがしに夢中になっている我が子の意外な一面を見ました。自然を使ったシンプルなゲームでも子ども達に取っては大冒険みたいに、充分楽しめるのですね。こうした機会が子どもの時により多くあるといいなあと感じました。 ・子どもと一緒に楽しいのですが、大人だけでもたのしめるのではないのでしょうか。やってみたいです。

成果

<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児と4歳児で、年齢に応じてアクティビティを変えた。5歳児は書かせ、4歳児は見つけるだけでよしとした。ふだん通いなれている園の庭にふしぎな生きものがいたり、ちょっと気にかけることによっていろいろな発見が見つかることをねらいとした成果は出たと思う。親子で体験したのがよかった。 ・字が読めるか読めないか、字がかけるかかけないかの年齢なので、書かせるアクティビティができるかどうか不安があったが、保護者や教員のサポートがあったのでスムーズにできた。

課題

<ul style="list-style-type: none"> ・幼児を対象とした体験活動の場合、その教材として字を読んで理解してもらえるのかどうかは大きなポイントである。今回は保護者や教員のサポートがあつて特に問題なくスムーズに進行することができたが、状況によっては今回同様の進め方はできないこととなるので、対応できる教員や指導者又は保護者の体制がとれるかどうかの事前の状況判断が大切である。 また、対象になる子どもたちについて、年少や年長の子が混在しているような場合は、子どもたちそれぞれの理解度にも大きな差があることから、こうした場合は理解度の低いものに基準をあわせるようにして、参加する子どもたちが皆平等に楽しめるように配慮する必要がある。 一般的には、対象が混在して基準が絞れないような場合のプログラム展開は、指導者にとってはよりむずかしくなっていく傾向があるので、できるだけ対象は単一的な対象として捉えられるようにできると進行もスムーズになるだろう。

石川県 羽咋市 会場

開催日	平成 22 年 2 月 13 日 (土曜日)
開催会場	こすもす保育園
行事参加者数	親子 24 組 53 名 (内訳: 大人 24 名 子ども 29 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	こすもす保育園

当日のプログラムのテーマやねらい

普段は一つのものに対して、同じ目線にたって向き合ったことがない親子に、同じ体験を通してともに感じたことを伝えあうことができるプログラムを通して親子の絆を深める。親子同士がかかわりあいをもてる時間をつくる。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
9:00	集合 はじめのあいさつ	開会の挨拶 スタッフ紹介	
9:10	色さがし	色付きサイコロを使って、リーダーがサイコロをふり出た色を親子で見つける色探しの活動	親子がサイコロに出た色をともに協力しながら見つける。
9:40	同じ音さがし	大豆、小豆、米など一種類を、中が見えないフィルムケースに入れて、親子一組に一個ずつ配る。フィルムケースを振って音を聞き分けながら、同じ音がするグループをさがす。 これにより各自が持っているケースをふって音を聞き分ける力を育む。	音が出やすいように種類ごとに量を加減する。 全体のコミュニケーションを楽しむ雰囲気作りを心がける。
10:10	生きもの絵合わせ	私たちが身近に接する動物の絵をパズル方式に分けたカードを配布する。自分の持っているカードをお互いに見せ合いながら、チームごとに一つの動物の絵を完成させる。 普段みなれた生きものについて、それぞれの違った特徴を見つけることができ、これにより自然に対する親しみが湧いてくる。	どのチームがどれだけ早く絵を完成させるかではなく、みんなが考えながら一つのを完成させることに重点を置く。
10:40	終わりの挨拶	今日の活動をふりかえり、親子のコミュニケーション、また親子同士のかかわりをふりかえり、絆を確認した。	今日はさまざまな感覚を使う活動を通して、新しい視点からの親子での会話の機会になったと思います。また同じ活動を通して共感しあえる仲間作りになったと思います。
11:00	解散		

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	1 人	9 人	9 人	2 人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんで いた	楽しんでいた	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	8 人	12 人	0 人	1 人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	6 人	14 人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	3 人	18 人	0 人	0 人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	21 人	0 人		

参加者（保護者）の声

- ・大きな部屋でやりたかったです。
- ・絵合わせの質問について、全体でおもしろく具体的に聞いてほしかった
- ・普段、五感を養うということを意識したことがなかったので、とてもいい機会になった。
- ・子どもたちが分かりやすい言葉で伝えていただけるともう少しわかりやすかったかな。

成果

- ・音の遊びは親と子どもが一緒に楽しく遊べました、五感ゲームが楽しかったなど、五感を使ったゲームが好評だった
- ・普段、五感を養うということを意識したことがなかったという保護者の方がいて、新しい切り口での子どもとの関わり方を提案できたのではないかと思います。

課題

- ・年齢にあった言葉がけへの意識が足りなかった
- ・少人数でグループごとに話し合う場をもつことによって、親子同士の絆を深められるのではないかと思った。事前に参加者にテーマを少し考えてもらって、本番でグループごとに発表しても良いかと思った。

活動の様子



同じ音さがして同じ音の人を探している



生きもの絵合わせで協力して作成している

愛知県 瀬戸市 会場

開催日	平成 21 年 12 月 12 日 (土曜日)
開催会場	愛知県海上の森センター「幼児森林体験フィールドの森」
行事参加者数	親子 21 組 60 名 (内訳: 大人 28 名 子ども 32 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	広報のみ NPO 法人森のようちえん, 名古屋・瀬戸市内の幼稚園

当日のプログラムのテーマやねらい

<p><テーマ> ネイチャーゲームで森でいっぱい遊ぼう! ~親子で季節を感じよう~</p> <p><ねらい> ・子ども(幼児)・・・地域の自然や伝統・文化、先人の智慧を学ぶ ・親・・・親子のコミュニケーションと地域や日本文化への興味を促す</p> <p><内容> ・親子でネイチャーゲーム<同じものを見つけよう>アレンジ ・親子でクラフトで森の木や葉っぱを貼り付け、葉っぱのダルマをつくろう ・エプロンシアター「冬至」 ・冬至にちなんだ食材、カボチャやユズのクッキーやユズ茶を飲み、先人の智慧と地域の生態系サービスを考える</p>

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
9:30	集合		
10:00	あいさつと諸注意	ネイチャーゲームのルール、持ちもの、危険箇所、安全対策の確認	
10:10	開会式		
10:20	<同じものを見つけよう>	虫食い葉っぱ・黄色い葉っぱ・木の実・大きな葉っぱなど、葉っぱの見本を示し、親子で探してもらう	森を見上げ、葉っぱを落とした森だけど、足元にはいろんな葉っぱがあるので遊んでみよう!と声かけした
10:50	葉っぱの雪だるま作り	家族毎に1枚雪だるま型の台紙(両面テープ付き)を配布。葉っぱを貼り付け目玉と手にする枝を貼り、吊り用紐をつけて森に飾る(持ち帰る)	いろんな葉っぱを見つけたね!葉っぱの布団で虫たちは暖かく過ごしているから、裸の雪だるまにも葉っぱの洋服を着せましょう。
11:20	記念撮影 エプロンシアター (冬至について説明)	黄色のバンダナと黒画用紙を使い、	昼と夜を表現し、冬至の風習をお芝居も入れて説明。最後に本物のかぼちゃとユズを見せる。
11:35		寒さが厳しいこの頃はカボチャを食べたり、ユズ湯に入る風習があること、循環する	
11:55	おやつタイム	自然の中で季節にあった食べ物が先人の生きる知恵であったことを伝える。	
12:00	閉会式 解散	ユズ入の水での手洗いと、ユズ茶とカボチャクッキーを楽しむ あいさつとアンケート記入	スタッフがあらかじめ用意・保護者の了解を事前に得た上で実施

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	5 人	10 人	3 人	2 人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいた	楽しんでいた	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	12 人	7 人	1 人(わからない)	0 人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	14 人	6 人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかつた	やり方が理解できなかった
	12 人	8 人	0 人	0 人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	20 人	0 人		

参加者（保護者）の声

<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱ集めは積極的で自分からスタッフの方へ話しかけていた（多数回答アリ） ・普段はもじもじしているが葉っぱ集めは兄弟で遠くまで行っていた。 ・子どもより親がゆったり、大きな目で子どものやんちゃぶりを見れた ・スタッフの注意をちゃんと聞いて、遊んでいた ・いつもよりチャレンジ精神が旺盛だった ・今回初めて参加したが機会があれば是非参加したい（多数回答アリ）
--

成果

<ul style="list-style-type: none"> ・こうしたイベントにおける、幼児とその親（家族）のニーズが高いことを確認 ・プログラムを通して、森での遊び方が広がった ・日本の伝統行事を幼児とその親に伝えられた ・生態系サービスの観点から地域の食材を活用できたこと ・幼稚園・保育園・森のようちえんの方との交流ができた

課題

<ul style="list-style-type: none"> ・親子での森遊び体験に差があり、プログラム実施において物足らなさを感じた参加者もいた ・子ども同士の自由時間が欲しいなど本事業の目的と違う意見もあった ・指導員が活動を幼児対象にアレンジしたり、ビジュアル的にわかりやすく説明する技量も必要 ・幼児とその親募集は家族全員参加になることもあり、対応したプログラムや安全対策が必要 ・森で自由に遊ばせる活動と目的や達成度が問われる事業では展開が違い、参加者ニーズと合致しないこともある ・何を伝えたいか明確にして多くの活動を入れすぎず、1つの流れを考える工夫が必要

活動の様子



<同じものを見つけよう>



冬至をテーマにエプロンシアター

三重県 四日市市 会場

開催日	平成 21 年 6 月 21 日 (日曜日)
開催会場	三重県環境学習情報センター
行事参加者数	親子 5 組 16 名 (内訳: 大人 7 名 子ども 9 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	なし

当日のプログラムのテーマやねらい

和文化和自然をコラボした日本人特有の生活様式の体験を通して、日常生活の中での気づきを親が理解し、子に伝えることを実際に着物(ゆかた)着付けをして、外にでることで、家族とふれあいを通して、あたたかい心のつながりをゆっくりとした自然の中で過ごすことで味わう。日本人ならではの「あたりまえのこと」を忘れていたことを思い出す機会にする。

実施プログラム

10:00	集合 受付 はじめのあいさつ <はじめまして>	開会のあいさつ、スタッフ紹介 センター長から施設案内 親子のコミュニケーションを 促すために集合した場所やゆ かたに関するとても簡単なカ ードを使用して実施	明るく「いらっしやい！」と受付 センターの方やスタッフも入っ て、子どもの目線で実施した(大 人はしゃがんで実施)
10:15	親子でゆかたの着付 け	まず、ゆかたについて簡単に説 明して、子どもたちにみせ、日 本人としての“着物”の意味を 伝える。ひもの結び方を親子で 練習し、子どもに着させる	ゆかたや帯結びをテーブルに並 べて、参加者にさわってもら うスタッフも一緒になってゆかた を着る。
11:00	野外にて散策・採取 フィールドウォーク <宝さがし>	着物を着て一緒に歩いてみる ことで着物を楽しむ。 下駄やぞうり、サンダルなど、 ゆかたに合った外履きをはい て、野外にでて、着物を楽しむ。 着物を楽しみながら、袖に木の 葉や落ちているものを集めて 歩いた	「いつもと違う装いの気分は？」 と呼びかけ、あらためてゆかたの 着心地を感じてもらう。 袖にももの入れられることを伝 える。
11:20	森の万華鏡づくり	散策で拾ってきたものの中か ら、小さなものを集めて、万華 鏡の中に入れて楽しんだ。	
11:35	<自然の紋> 終わりのあいさつ	集めた葉をながめながら、オリ ジナルの紋づくり 体験を通して今日は「和」の暮 らしから入ってみました、と 講師から参加者への一言をも らいながら終了	着物の話で紋にふれた際に、ネイ チャーゲームを紹介すると「やり たい」との声があり実施。
12:00	解散		

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	3人	4人	0人	0人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	7人	0人	0人	0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	7人	0人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	7人	0人	0人	0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	7人	0人		

参加者（保護者）の声

- ・初めてでおもしろい
- ・保育園でもやってほしい
- ・和服を改めて見直せた。他にももっと開催すれば良いと思う

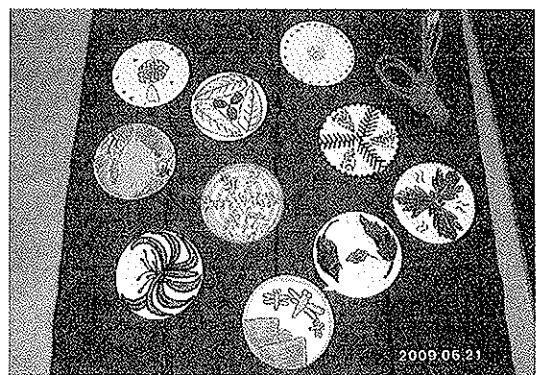
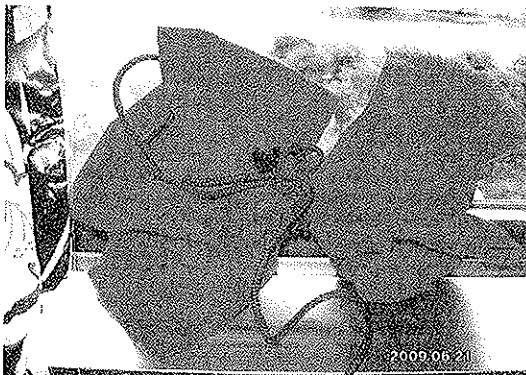
成果

- ・活動に対して積極的な反応があり、参加者の希望に添うように楽しくすすめることができた。
- ・ゆかたを着て、きれいに変身できたところで「かわいい」の声がたくさん出てきた。子どもたちにとっても、大人にとっても着物を着る体験を通して、その楽しさが少しでも伝わったと思う。
- ・袖が重くなるほど集めた子どももいて、たもとにどンドン入るので、「着物って便利だね」と親からの声があり、普段着ることの減ってしまった着物の特性の一つについて気づいてもらえた。
- ・子どもたちにはまだ小さくわからない文化でも、親が体験を一緒にすることにより自然に覚えていくだろう
- ・普段何気なく見ている自然が、万華鏡にすると驚くような世界になり、特に小さなお子さんは、ずっともって楽しんでいました。
- ・浴衣を着て歩きにくそうなのは大人だけで、子どもたちは大はしゃぎで、よい経験になった

課題

- ・このコラボをまたくりかえし普及してみたい
- ・マイナス反応がなく、またセンターの方も初めての試みに新鮮な様子で協力してくれた

活動の様子



滋賀県東 近江市 会場

開催日	平成 21 年 10 月 7 日 (水曜日)
開催会場	愛里保育園 (河辺いきものの森)
行事参加者数	親子 21 組 42 名 (内訳: 大人 21 名 子ども 21 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	愛里保育園

当日のプログラムのテーマやねらい

- ・親子で自然に触れ、発見や感動を共有して親子の絆や友達とのつながりを深める。
- ・琵琶湖のヨシを使ってクラフトをすることで琵琶湖の環境に関心をもちながら、つくったものを使って遊ぶ楽しさを感じる。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
9:30	集合		
9:45	あいさつ・説明 〈ノーズ〉	・ある生きもののヒントからその生きものを推測し、特徴や生態について学ぶ。生きもののへの興味を引きだてる。	・身近な動物でわかりやすいヒントを出していく。
9:55	〈動物ヒントリレー〉	・7種類の動物についてのヒントを集めながら、その動物が何かをグループで協力して考える。生きものの特徴を学ぶ。	・ヒントを絵のカードで出していく。 ・ヒントを協力して考えていけるように時々グループに入って行って助言する。
10:15	〈フィールドビンゴ〉	・「きのみ」や「ぬけがら」など自然の宝ものを探すビンゴゲームを通して、さまざまな感覚をとぎすまし、観察する力を身につける。自然に興味を持たせる	・子ども用のカードを使う。 ・家族同士で活動できるようにする。
10:40	クラフト	・琵琶湖に生息するヨシを使ってヨシ笛を作る。活動を通してヨシの育つ場所である琵琶湖のことを知るとともに、琵琶湖をはじめとする地域の自然への親しみを育む。	・こどもでもできるように途中の段階まで作っておく。
12:00	おわりのあいさつ 解散	今日の活動のふりかえりと分かち合い・アンケートの実施	

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	2人	10人	6人	1人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	13人	6人	0人	0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	9人	9人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	9人	10人	0人	0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	19人	0人		

参加者（保護者）の声

- ・ ドングリやアリを一生懸命に探して楽しそうだった。
- ・ あまり虫とかは好きじゃないのに触ったりしていた。
- ・ 普段子どもとゆっくり遊ぶことができないので、子どもと自然体験ができてよかった。
- ・ 集中して何かを探している姿が見られた。
- ・ ビンゴで自然をみつけるのが楽しそうでもたやりたいな。
- ・ よしぶえはちょっとむずかしかったけれど楽しかったです。

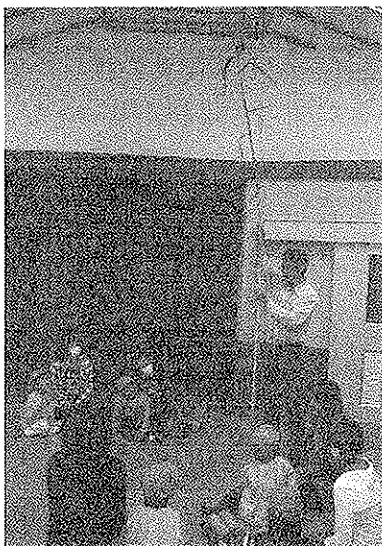
成果

- ・ 日頃、生きものに触れない子どもが生きものに触ることができたという機会を提供できてよかった。
- ・ 親が日頃子どもと遊ぶ機会がなかなかないがゆっくり遊ぶ機会を提供できた。
- ・ できたよし笛でけっこう楽しくあそんでくれた。琵琶湖のことを一つ学んでもらえた。

課題

- ・ クラフトがもう一つ難しかったようである。もっと工夫していく必要がある。

活動の様子



ヨシ笛作り



<フィールドビンゴ>

奈良県 大和高田市 会場

開催日	平成 21 年 12 月 2 日 (水曜日)
開催会場	奈良文化女子短期大学付属幼稚園
行事参加者数	親子 53組 112名 (内訳: 大人54名 子ども58名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	奈良文化女子短期大学付属幼稚園

当日のプログラムのテーマやねらい

子どもたちが普段から親しんでいる学園（みどりの幼稚園）内の自然を親子で楽しむ。体験を通して親子間でのコミュニケーションを深め、自然への気づき、お互いへの気づきを促す。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
10:00	集合 はじめのあいさつ	みどりの幼稚園園長挨拶 スタッフ紹介	
10:15	<動物ヒントリレー>	身近な生き物についての部分的な写真をヒントに、どんな生きものかを推理する。親子交代でカードを取りに行ってもらうことで、親子での協力、コミュニケーションを促す。	生き物については、園やクラスで飼育しているもの、周辺で子どもたちが見たり触ったりしているものを選択。ヒントの写真については、本物を見られるかもしれないもの、親子で何だろうと考えられる(見慣れない)ものも入れた。 お子さんの年齢別グループ分けを行って、以下の動物を取り上げて実施した。 5歳…ダンゴムシ、カツムリ、カマキリ、カエル 4歳…ダンゴムシ、カマキリ、ザリガニ 3歳…ダンゴムシ、ウサギ、カツムリ、ウサギ
10:30	<フィールドビンゴ>	「きのみ」や「ぬけがら」など自然の宝ものを探すビンゴゲームを通して、感覚をしっかりと働かせる。親子で楽しみながら、見つけたものを共有し、たくさんの自然への気づきを得る。	小さな子どもにわかりやすい絵が描かれた、ビンゴカードを使用した。 見つけたら、親やお友だちに教えるように声かけを行った。
11:10	<わたしの木>	親子でグループになり、子どもが目隠しをした親を一本の木までを案内し、紹介する。木を介して親子の信頼関係を育む。	小さな子どもにわかるように、丁寧なデモンストレーションを行った。目かくししている親を誘導するのに「やさしくね」「大事にしてね」などと声かけをした。
12:00	おわりのあいさつ 解散	活動のふりかえり・アンケートの実施	

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会はありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	8 人	24 人	13 人	6 人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいた	楽しんでいた	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	32 人	18 人	0 人	0 人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	34 人	16 人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかつた	やり方が理解できなかった
	29 人	21 人	0 人	0 人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	51 人	0 人		

参加者（保護者）の声

- ・ 普段では見れない子どもの姿に出会えた(イキイキとした様子、目がキラキラ、一生懸命探していた、責任感のある)
- ・ 木を真剣に触ることがあまりないのでよい経験ができた
- ・ においをかいだり触る感覚は普段はあまり使わないので新鮮だった
- ・ 子どもの選んだ木が私も気に入った
- ・ お友だちとの関わりを教える機会になった

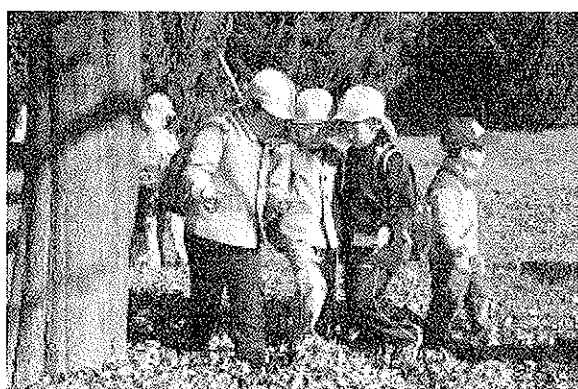
成果

- ・ 手をつないで散歩することにより、スキンシップやコミュニケーションがとれた
- ・ 親同士の交流ができた
- ・ 親子の笑顔がいっぱいだった
- ・ 子ども同士教えあう姿があった
- ・ 子どもが好きなものを見つけることができ、それを親に伝えることができた(3歳)
- ・ 子どもの親への思いやり(誘導や木を選ぶ時)
- ・ 普段子どもが感じている自然を親にも感じてもらえた

課題

- ・ 移動時の荷物 身軽にと思いビンゴも穴あけ式にしたが当日にお弁当を全員で野外で食べることになったため荷物を持つての移動となった。少し動きが制限されたのではないか？
- ・ 親子活動としての継続性
- ・ 指導員と幼稚園の関わり方

活動の様子



<フィールドビンゴ>



<わたしの木>

山口県 山口市 会場

開催日	平成 21 年 9 月 22 日 (火曜日)
開催会場	山口県セミナーパーク
行事参加者数	親子 15 組 42 名 (内訳: 大人 21 名 子ども 21 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	(チラシ配布協力) 秋穂幼稚園, 二島幼稚園, 名田島幼稚園, 鑄銭司幼稚園, 陶保育園, 小郡幼稚園, 西円寺幼稚園, 鴻城付属幼稚園, 小郡保育園, 秋穂保育園, 大海保育園

当日のプログラムのテーマやねらい

- ・親子で地域の自然(季節の動植物)にふれ、郷土愛を育む。また、先人の知恵を学ぶ。
- ・親と子、親同士、子同士のコミュニケーションをはかる。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
10:00	開会 オリエンテーション	挨拶・スタッフ紹介・参加者紹介・活動時のルールの伝達	
10:15	どっちのインタビューショー&くはじめまして>	「山と海」などの2つのものを示し、どっちが好きかをインタビューし、お互いに伝え合うことでアイスブレイクにつなげた。	「山と海」「〇と〇(虫)」「〇と〇(動物)」「〇と〇(鳥)」「虫と鳥(鳴き声)」など親しみのあるもので実施した。
10:25	くしぜんのだいすきだいじさがし>	親子で一緒に自然物を探す活動をとおして、自然物の持っている魅力を感じてもらうとともに、自然物を通じた親子のコミュニケーションにつなげる。	落ち葉や木の実などの自然物の一つずつ探してきてもらうことで、落ち葉などをただ漠然と見るのではなく注意深く観察してもらった。
10:55	くフィールドビンゴ>	さまざまな感覚を使って自然の中を歩き回ること、自然の中の宝ものを見つけ、自然の中にある本当に大切なものを見つける。	親しみやすい絵や写真を入れて作成したビンゴカードを使って実施
11:35	秋の七草を学ぼう	秋の七草についてふれながら、先人の人たちが季節を身近に感じ生活していたことを学び、季節の変化を感じられる力を育む。	フィールドビンゴで見つけて来たものの中から、秋の七草を見つけてつなげることで、実感と親しみにつなげた。
11:45	全体のわかちあい・まとめ	みんなの住むこの山口県には、たくさんの生きもの(動植物)が住んでいること、それらはすべて必要であり、だいじなものであることを伝えた上で、だいじなものをたくさん見つけて、自然をいっぱい好きになってほしいこと、発見したことをお家の人に話してほしいことを伝えた。	今日はどんな生きものを見つけましたか、その生きものはみんなの家のまわりにもいますかと声かけをし、今日の活動を一人ひとりの生活と繋がるよう促した。最後に『センス・オブ・ワンダー』の23ページの読み聞かせを行った。
11:50	閉会		
12:00	解散		

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会はありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	3 人	7 人	5 人	0 人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	11 人	4 人	0 人	0 人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	14 人	1 人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかつた	やり方が理解できなかった
	8 人	7 人	0 人	0 人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	15 人	0 人		

参加者（保護者）の声

- ・子どもとの関わり方の一つを教えてもらえてよかった。
- ・身近な場所で五感を使った遊びができることがわかった。
- ・大人の話が少し長かった。
- ・また参加したい。

成果

- ・子同士、保護者同士のコミュニケーションが深まった。
- ・保護者の方に子どもとの関わり方の提案ができた。
- ・幼稚園や保育園にチラシの配布依頼をしたことにより、ネイチャーゲームの認知度の向上に繋がった。

課題

- ・幼児にも分かる言葉遣い、表現方法（パネルなどの絵を使うなど）、工夫が必要。
- ・幼児親子の参加できる企画が今まで少なかったので（小学生を対象にするものが多かった）、今後は県協会や地域の会などの行事で、幼児親子を対象にした企画も必要。

活動の様子



「しぜんのだいすきだいじさがし」



「フィールドビンゴ」

徳島県 阿南市 会場

開催日	平成 21 年 12 月 9 日 (水曜日)
開催会場	津乃峰保育所および塩釜神社
行事参加者数	親子 25 組 50 名 (内訳: 大人 25 名 子ども 25 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	津乃峰保育所

当日のプログラムのテーマやねらい

胸をときめかせ楽しく遊べるネイチャーゲーム活動を通して、子どもたちの遊ぼうとする意欲を呼び起こし、自然に対する興味を引き出し、自然とのつながりを感じたり考えたり聞こうとする力、他の人の気持ちや生き物を大切にしたり感謝する心を育み親子の絆や友達とのつながりを深める。また、身近な神社の森での体験を通して、地域の人たちの神社への思いを感じ地域の人たちともつながっていることを学ぶ。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉かけ
8:30	集合 はじめの挨拶	開会の挨拶・スタッフ紹介	いつもの活動場所でないので、安全について注意事項を知らせる。
8:40	グループジャンケン対抗合戦 カクレミノの葉利用	親子、子と子、親と親が楽しくコミュニケーションがとれるように、3種類のカクレミノの葉を見せて何に似ているか考え合った後、グループ対抗のジャンケンゲームを実施	集中して活動できるように最初のゲームは室内で実施する。親子5組約10人のグループに分け、グループで相談して一つの答えを出したり、ジャンケンをしたりできるように声かけをする。
9:10	<カモフラージュ>	見つける喜び、生き物の生き方に興味を持ったり、発見を伝え合い他の人と共感する楽しさ、ワクワク感が持てるようにカモフラージュの設定をして実施	時間待ちが長くなるように、5箇所に設定する。ルールをわかりやすく説明し、発見するワクワク感を全員が持てるようにする。グループのみんなとふれあえるように、発見を分かち合える場を持つ
9:40	<サイレントウォーク>をしながら森を感じよう	神社の森をさまざまな感覚を使って胸をときめかせて感じたり、感じたこと互いに伝え合い認めあえるようにサイレントウォークの方法について説明して実施	グループとの間隔を十分に取っくくりと時間をかけて歩けるよう配慮。(親子5組10人のグループで行動) 最初は親子で話し合いその後みんなので分かち合うようにする。
10:10	休憩		
10:20	<私たちの木> 木の下でく音い くつ> <木の鼓動> ・木と話そう (木へのインタビ ュー)	神社の森の様子に興味を持って観て、地域の人達が神社にどのように関わっているか感じたり、想像力を発揮して木と話したりする中で自然に対して感謝する心が育つように実施	森の様子を親子でゆっくり見て相談し自分の木を決めその後でみんなの意見を聞いてグループの木を一つ決めるように助言する。グループの木の下で音を聞いたり、木と話したりする。自然とのつながりを感じられるような分かち合いができる言葉かけをする。
11:00	<名付け親の旅>	想像力を発揮して、楽しく名前をつけたり、グループで十分話し合える時間を取りお互いの思いを聞きあえるように実施	子どもたちが、考えたり想像しやすい特徴のあるものを選ぶ。暖かい場所を選んでゆっくり分かち合える時間を持つようにする。
11:30	おわりのあいさつ 解散	全体の感想を聞く・閉会の挨拶	

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会はありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	0人	6人	8人	7人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	7人	13人	1人	0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	13人	8人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	5人	15人	0人	0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	21人	0人		

参加者（保護者）の声

- ・自然の中で、親子で体験する機会が持ちにくいので、今回のような体験ができてとても良かった。また体験したい
- ・自然と触れ合っている時の子どもの表情が好奇心いっぱい、真剣でいきいきしていた。
- ・大人では感じない感じ方が子どもにあることや、普段気づかないことに気づいたりするのに感動した。またわかちあいのときに、自分の思ったことを積極的に答える姿に子どもの成長を感じた。
- ・公園や屋外で一緒に遊ぶことはあっても、自然と触れ合って遊ぶことがなかったので、新鮮で気持ちよかった。
- ・身近にこんなに自然が沢山あることに気づかされたり、ふだん目にとまらないものまで見えたように思う。
- ・ふだん触れないものに触れた時の子ども表情を見て、体験する大切さを感じた。

成果

- ・いろいろの気づきがあり、肯定的に受けとめ、今後に生かそうと感じてもらえていることから、親子での活動に取入れたり、こちらからの呼びかけに積極的な参加が期待できる。
- ・今回は津乃峰保育所が快く協力してくれて、保護者を募集してくれたこと、自然豊かな塩竈神社が近くにあるという条件に恵まれ、絆を考えるチャンスを提供できた。

課題

- ・協力保育所のような母体がなく、公募するとなるとペアーの人集めが大変だ。
- ・地域との絆ってどう考えたらいいの？という場所のほうが、多いのでは、と心配します。

活動の様子



葉っぱ（カクレミノ）のグループジャンケン



わたしたちの木・・・これにしよう！

愛媛県 松山市 会場

開催日	平成 21 年 10 月 25 日 (日曜日)
開催会場	松山総合公園・考古館
行事参加者数	親子 13 組 31 名 (内訳: 大人 13 名 子ども 18 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	なし

当日のプログラムのテーマやねらい

幼児とその親が、松山総合公園の自然に触れ、親しみ、また、松山総合公園内にある考古館を通して、地域の歴史を学び、松山総合公園への愛着が育む。親には、子どもとの関わり、地域との関わりを促す。ここでの活動が、地域社会の創造の場となることを目指す。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉 かけなど
9:30	集合		
9:40	はじめのあいさつ 考古館見学	開会の挨拶・スタッフ紹介 松山市の歴史について展示を 見る	
10:10	<フィールドビンゴ>	親と子、親と親、子と子のふれ あいを意識して、さまざまな感 覚を使った自然の宝探しを通 して、考古館の裏手の山の自然 に触れ合ってもらう	子どもたちでの楽しめるよう に、わかりやすい絵で探し物 を書いたカードを使用した
10:30	山の手入れ	自分たちの出来る範囲で地面 を覆うツルを刈り、山の手入れ を体験してもらった。活動を通 して協力しあい、交流につなげ た。	無理なく楽しみながら行なっ てもらえるよう配慮して声か けをした。
11:00	お話し→読み聞かせ	絵本『くまとやまねこ』を読み、 絵本の世界を林の中で感じて もらった。	リーダー自身が心落ち着けて 取り組むことで、子どもたち の落ち着いた雰囲気づくりを 心がけた。
11:20	<わたしの木>	親子でグループになってもら って、親が目隠しをした子ども を木に案内することで、林の中 に親しみの持てる木を見つけ る活動。	丁寧なデモンストレーション を心がけ、特に安全面かたの 配慮を伝えた。
11:40	秘密の基地づくり	出会った仲間と枝や葉っぱを 使って秘密基地を作る。グル ープで助け合いながら、想像力 を働かせて素敵な自分たちの居 場所を林の中に作る	親子同士を組み合わせ、グ ループを作った。 秘密基地を作った後、自由に 秘密基地で過ごしてもらい、 自分たちの居場所をあじわっ てもらった。
12:30	おわりのあいさつ 解散	活動の振り返り・わかち合い・ アンケートの実施	

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある 1人	たまにある 4人	あまりない 5人	ほとんどない 3人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいた 6人	楽しんでいた 6人	つまらなそうだった 0人	やり方が理解できなかった 0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった 12人	特になかった 1人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた 5人	楽しめた 8人	つまらなかった 0人	やり方が理解できなかった 0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う 13人	思わない 0人		

参加者

- ・一人っ子なので、こういう機会ありがたいです
- ・また、一緒に楽しみたいです
- ・空を見上げてまぶしそうにしていたり、葉に穴をあけて顔を作ることに夢中になったりと自然を楽しんでいた
- ・絵本のシーンに風や木・葉の描写の時には、実際にそれらを感じながら本の世界に入り込んでいるように思いました
- ・声が弾んでいました
- ・目が楽しそうでした

成果

- ・地域の歴史を学ぶ「考古館」との協力体制づくりが出来た
- ・親子で自然に親しむ場の提供が出来た
- ・自然の中では子ども同士、親同士のコミュニケーションが図りやすく、新しい出会い場の提供が出来た

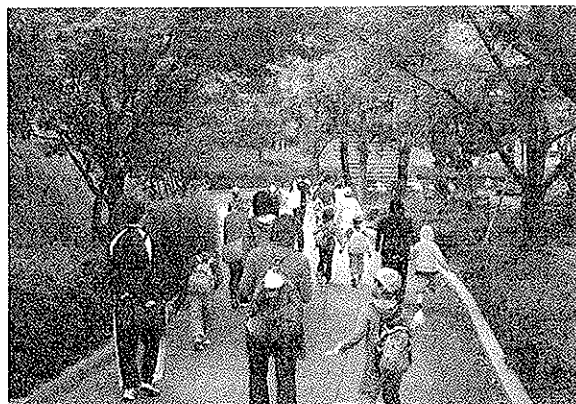
課題

- ・活動フィールドの整備
- ・活動を支える人の輪づくり

活動の様子



<考古館見学>



<フィールドビンゴ>

佐賀県 鹿島市 会場

開催日	平成 21 年 9 月 5 日 (土曜日)
開催会場	鹿島市海童保育園・浜宿 及び 臥竜ヶ岡公園
行事参加者数	親子 14組 28名 (内訳: 大人 14名 子ども 14名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	海童保育園

当日のプログラムのテーマやねらい

子どもには地域への郷土愛や伝統文化、先人の知恵などの体験の場を、親には子どもとの関わり、地域との関りを促す場を持って、強い絆で結ばれた地域社会の創造を目指す。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
8:30	あいさつ	自己紹介と参加者の健康状態・気持ちの状態の確認	
8:35	アイスブレイク	・楽しさを作り出す ・親子で行動することを意識付ける	・親子のふれあいを重視する、体を使った遊び ・やり方については解らないことはお母さんに聞いてなどお母さんを通してやり方を子どもに伝え、お母さんも一緒に活動との意識付けを行います。
8:50	<フィールドビンゴ>	親子で体を触れ合わせながら、体を動かす。手を引っ張り合ったり、ぐるぐる回ったり、股をくぐったり、顔を見合わせ、表情を変えたり。 ・様々な感覚をとぎすます ・観察力を高める ・自然からの発想を得る 自然物でのビンゴゲーム	・見るだけじゃ解らない、触ってみよう、匂ってみよう ・みんながそうだねと思ったら○ ・面白いものを発見したら、大きな声でみんなを集めよう ・どんなものがあるか想像してみよう
9:30	しぜんのだいすき だいじはっけん	グループでカードに書いてある様々な自然物を本来持っている様々な感覚・感性を使い見つける。 ・様々な自然物に親しみを持つ ・自然物に感情移入する	・素敵な宝物を探してみよう ・親子で手をつないで探そう ・お互いに見せ合おう ・みんなで拍手 ・みんなで森にお礼を言おう
10:10	どこでも散歩	親子で、一番大きい葉っぱ、小さい葉っぱ、大きいドングリ、小さいドングリ、顔に見える葉っぱ、虫が大好きだと思う葉っぱ、みんな大好きなもの この森の小人が大事だと思うものなどを探す。 ・お互いの気持ちを分かち合う ・親子の視点を共有する	・お互いの気持ちになってみよう ・大きな声を出して子どもの気持ちに帰ろう ・お母さんやお父さんがちゃんと遊べるようちゃんと見守ってね
10:25	終わりの挨拶	帰り道、親子の役割を交代してお散歩をする。親は子どもの役割いろんなものを発見して喜ぶ、遊ぶ、はしゃぐ、子どもは親の役割、親が遊ぶのを見守る、分かち合う、保護する 子どもと親の絆を深めるためには	子どもの気持ち、大事にしますか？ 忙しい時間のかなで、置き去りにしているきもちはありませんか？、プラス思考でとても前向きな考え方で、いいけど、マイナスの心にも真っ直ぐ向き合っ折り合いをつけないと気持ちが溜まっていきますよ。親がすぐ横にいてくれる安心感はとても大切

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	2人	10人	2人	0人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでた	楽しんでた	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	7人	7人	0人	0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	8人	6人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	4人	9人	0人	0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	11人	1人		

参加者（保護者）の声

- ・暑さも忘れるくらい夢中になって探しました、普段、気に留めていないことの多さに気づきました、いろんなことに気づく心のゆとりを持たなければと思いました。
- ・植物の名前や危険な生き物など詳しく教えてもらえたら良いかなと思います。
- ・葉の裏などにも毛虫や生き物が生きている様子が見れて良かった。
- ・普段下にも兄弟がいるので、親子二人きりで何かをすることが少ないので、とてもよい場になりました。ビンゴゲームが楽しかったです。いろんな季節にやってみたいです。
- ・拾ったドングリを「これは大事なものだから」と言って、自分で元に戻していた事。こんな優しい気持ちを持つようになったのだなと成長に驚きました。
- ・自然に対する思いやりの心・言葉を発していた。

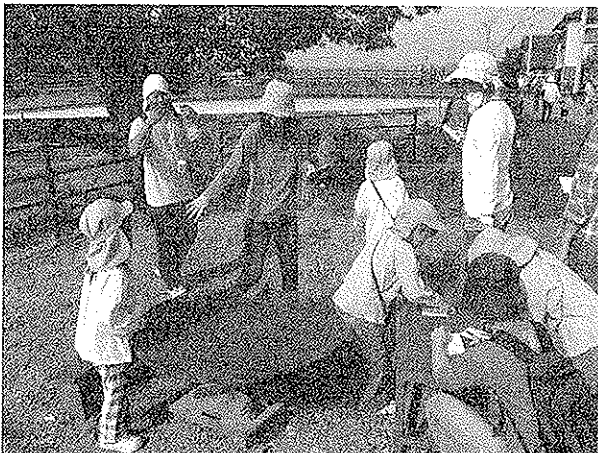
成果

- ・ネイチャーゲームと通じて親子のふれあいの場を提供するとともに、実際に体験してもらうことにより日常に戻ったときの親子のふれあいの方法について習得してもらった。
- ・ネイチャーゲームを通して、様々な自然物を感じることで親子のお互いの感性の違いを認識するとともに、様々な気持ちを認識し違いを尊重する気持ちををはぐくんだ。

課題

- ・一過性の体験に終わらせないためには、継続的に実施してもらう必要がある。
- ・残暑厳しい中の行事であり、健康管理には十分配慮はしたが、一部疲れもあり、今後実施する場合実施時期の検討は必要だ。

活動の様子



自然の大事さがし。あれ、あれは何だ！



<フィールドビンゴ> どんな物見つけたの？

長崎県 長崎市 会場

開催日	平成 21 年 10 月 18 日 (日曜日)
開催会場	シビックホール
行事参加者数	親子 10 組 29 名 (内訳: 大人 10 名 子ども 19 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	なし

当日のプログラムのテーマやねらい

就園児の親子と「水辺の森公園」で、落ち葉や木の実を拾って秋の自然を楽しむ。
自然物を厚紙に貼り付けて、活動のお土産に持ち帰ってもらう。親子のコミュニケーションの場として楽しく過ごしてもらう。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉がけなど
13:00	集合 はじめのあいさつ	開会のあいさつ・スタッフ紹介	
13:10	絵本読み聞かせ	自然物に興味を持ってもらうために絵本『はっぱじゃないよぼくがいる』で読み聞かせを行なうことで、葉っぱへの興味を引き出し、自然を楽しむ準備をする。	子どもたちの意識付けとしての絵本を活用した。野外での活動へ意識付けをする。
13:30	<宝さがし>	親子の触れ合いを意識しながら、さまざまな感覚を使って自然物集めを行い、秋の自然を楽しむ。自然の中での親子でのコミュニケーションを楽しんでもらう。	親子で五感を言葉で確認しながら子どもと感じたことを共有してもらうように声かけをする。円滑な活動ができるよう スタッフも率先して親子に気づきを促す。
14:00	拾ったもので作品作り	拾ってきた自然物を 他の親子と見せ合う。 ハガキ大の厚紙に、<宝さがし>で拾ってきた自然物を、親子で協力しながら貼り付けてもらう。 拾った小枝で作品をたてかけるイーゼルを作った。 あらためて出来上がった作品を親子で鑑賞し、地域の自然の素材を使った作品を通してコミュニケーションを深める。	親子で一緒に作品作りを楽しんでもらう。 拾ってきた素材以外にも、スタッフで素材を準備しておき、素材が足りなくならないよう配慮した。
15:00	閉会のあいさつ 解散	ふりかえりとわかちあい	

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	1人	5人	3人	1人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	6人	4人	0人	0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	8人	2人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	6人	4人	0人	0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	10人	0人		

参加者（保護者）の声

- ・ 同年代の子どもたちとコミュニケーションがもてた。
- ・ わざわざ時間を作ることが少ないので、この様な機会はうれしい。
- ・ 五感を使ったプログラムは素晴らしい。子どもの成長に大切なことだと思う。
- ・ 子どもたちが楽しそうで、印象に残った。
- ・ 普段見落としがちな葉っぱや木の実を使っでの工作がよかった。

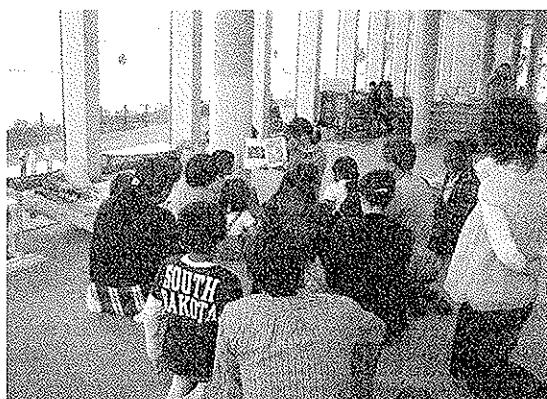
成果

- ・ 野外の自然に注意を向けられた。
- ・ 自然物から季節が感じられた。
- ・ 五感を通して自然物を観察し、他の人と確認し合った。
- ・ お母さんや・お父さんと一緒に遊ぶ子供たちの表情は、とても嬉しそうでした。
- ・ 自然物を熱心に貼り付ける子どもたちの集中力に、親御さんが驚いていた。
- ・ 室内で遊ぶより、コミュニケーションの輪が広がった。

課題

- ・ 公園の植え込みには蚊が多かった。
- ・ 今回のプログラムは初めての試みであったが、子どもたちや保護者の姿を見て、シビックホールの代表者から定期的な実施を頼まれた。就学前の子どもたちが対象なので、安全対策にもスタッフの人数確保が課題である。

活動の様子



子どもたちの意識づけに絵本で導入



集めてきた自然物でクラフト

熊本県 氷川町 会場

開催日	平成 22 年 2 月 7 日 (日曜日)
開催会場	立神峽里地公園
行事参加者数	親子 21 組 45 名 (内訳: 大人 23 名 子ども 22 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	たてがみきょう森のようちえん りとろ

当日のプログラムのテーマやねらい

早春の里山の自然を親子でわかちあう。親子が同じ体験をすることによって、自然に親子の会話を促し、共有できる思い出をつくる。

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、言葉かけなど
10:30	集合 あいさつ スタッフ紹介 参加者自己紹介		
10:40	<カウボーイゲーム>	事故防止のために、準備運動。安全への意識を高めた。 寒かったので、身体をあたためると同時に、参加者同士の交流のきっかけづくりを考えた。	スタッフが率先して、元気に明るく声を出して追いかけたり、数えたりした。
11:00	めだまっち	目玉を配って、自然物と楽しく仲良くなってもらった。親も子も楽しんで会話がはずんでいた。	ほかの親子の作品もいっしょに楽しめ、雰囲気がとてもよかった。
11:20	休憩	移動もあったので、途中のトイレを促した。	
11:30	<ミクロハイク>	虫眼鏡の使い方に慣れてもらうために、寝転がって土や草の感触やにおいを親子で感じてもらった。	まずごろんごろんと寝転がってみせて、楽しそうな雰囲気作りを心がけた。
11:40	<フィールドビンゴ>	虫眼鏡を持っての「しぜんたんけんビンゴ」を行なった。じっくりと足元の自然をみつめて、寒い冬だけど、生命の芽吹き	できるだけ親子で見つけあいをしてもらえるように言葉かけをした。
12:00	自然散策	季節、立春の季節感を感じ親子でわかちあった。	つわぶきの種飛ばしが楽しそうだったのでスタッフもいっしょに声をかけて楽しんだ。ほかにも、木の橋渡り、竹をたたいて音楽?、落ち葉で遊んだり、子どもの自発的な遊びを親も楽しんで、
12:20	解散	何気ない散歩道にも、たくさんの発見があることを親子で普段着のお散歩をしてもらった。	解散した。

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	4人	6人	7人	6人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	17人	5人	0人	0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	22人	1人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
	18人	5人	0人	0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	23人	0人		

参加者

- ・ 自然の中でのびのびと遊んでいるところで、笑顔がいっぱいみられた。
- ・ 耳をすまし木の音や風の音がすると言っていた。いきいき、のびのびしている。
- ・ ふだん見過ごしてしまいそうなものを見つけて「ほらみて！」と教えてくれました。
- ・ 何か発見したときの表情がよかった。
- ・ トンネルや橋をくぐる時の得意そうな表情、カウボーイごっこの馬を探すときの真剣な表情。
- ・ 落ち葉のじゅうたんにすごく興味をしめしていました。足でふんで音を楽しんだり、ママの靴を落ち葉で隠したりと遊び方がいっぱいですね
- ・ はじめてあった友達と楽しくあそんでいた。
- ・ 春にまたやって四季の移り変わりで感じ方が異なること等学んでほしい。

成果

- ・ 親子で見る（みつける）と、自然に会話が出てきて、親子の絆が深まっていた。
- ・ 寒い冬は防寒着をしっかりと着ているので、芝生に寝転がったり、乾いた落ち葉あそびには最適な季節だった。
- ・ 幼少期の自然体験は親子で行なうととても親も楽しめると感じ、アンケートからも親もその機会をのぞんでいるのではないかと感じた。

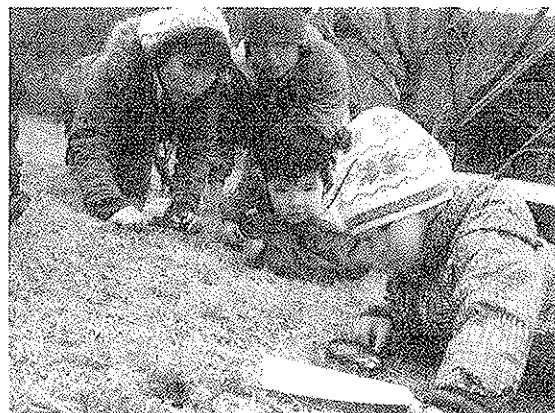
課題

- ・ めだまっちでは目玉の配り方テープの貼付け方をもう少し考えたほうがよかった。うまく貼れない場合があった。
- ・ 虫眼鏡は親子でひとつでもよかった。そのほうが見せ合いっこの度合いが高くなると思う。

活動の様子



<カウボーイゲーム>



<フィールドビンゴ>

宮崎県 綾町 会場

開催日	平成 21 年 11 月 14 日 (土曜日)
開催会場	創造の森
行事参加者数	親子 23 組 70 名 (内訳: 大人 27 名 子ども 43 名)
協力いただいた 保育園・幼稚園	綾町立南俣保育所

当日のプログラムのテーマやねらい

親子で楽しむ 秋の森とあそぼう！ 見つけよう！森のたからもの！

実施プログラム

時間	活動名	活動ごとのねらいと内容	ねらいを達成するための工夫、 言葉がけなど
8:30	集合	下見と安全点検、係分担確認	班付き確認と班での指導・全体指導確認
9:30	開会	あいさつ スタッフ紹介と自己紹介 ネイチャーゲームの約束	小さい子どもにも分かるように、はっきり大きな声・笑顔で挨拶した。
9:40 9:50	班分け 「ある物さがし」	4つの班に分かれる 「穴あき葉っぱ」1枚 拾う・穴をのぞく・穴から人を見る・穴から周りの自然を見る	親子は一緒の班になった。 「穴あき葉っぱ」絵表示を見せながら実施した。
10:00	<葉っぱジャンケン>	親子のコミュニケーションを促すために楽しいジャンケンモノを実施・葉っぱを4枚ひろってジャンケン・お題は4つ・実や葉っぱ、花びらをよく見て親子でさがす	参加した親子みんなで実施、いろいろな人と「2人組づくり」を4回してジャンケンし葉っぱをよく見て交流もできた。
10:15	<同じものを見つけよう>		さがす物は周りに落ちている物4つ
10:30	<森の色あわせ>	親と子、親と親、子と子のふれあいを意識して、実施・親子や班の人と森の中にあるさまざまな色を探す・遊歩道を歩きながら実施	森の色あわせカードをもって遊歩道を歩きながら実施した。 見つけて欲しい4色と他にもたくさん色の葉っぱや花、木の实、木の幹、虫などを発見できた。 見つけた色のモノをみんなで見せ合い楽しめた。他の班の色々な森の宝物も一緒に見合いながら分かち合った。 親子で帰って行った。
11:20 11:40	終わりの会 終了・解散	園長先生から御礼の挨拶	

参加者（保護者）アンケート集計

Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
	5人	10人	5人	2人
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？	とても楽しんでいました	楽しんでいました	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
	18人	4人	0人	0人
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？	あった	特になかった		
	19人	3人		
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。	とても楽しめた	楽しめた	つまらなかつた	やり方が理解できなかった
	14人	8人	0人	0人
Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、今回のようなプログラムは有効だと思いますか？	思う	思わない		
	22人	0人		

参加者（保護者）の声

- ・子どもが目をキラキラさせて色々なモノを探していた。
- ・友だちが見つけたモノと一緒に触らせてもらうことが、とても嬉しそうだった。
- ・ただ歩くだけではなく、“見つけよう！”という気持ちで活き活きと歩いていた。
- ・身近でよく見る植物なのに、子どもに伝えようとしたら、自分が知らないことに気づかされた。
- ・近所にこんなに良い森があったとは知らなかったなので、また家族で来たい。
- ・キノコを見つけて、子どもが「毒キノコ～、毒キノコ～♪」と作曲していた。
- ・ふだんあまり見られない（発見したときの）子どもの目の輝き、大きな声があった。
- ・木の実やキノコ、虫の抜け殻を発見したときの表情がとても可愛らしかった。
- ・<色あわせ>をするとき、「これは？これは？」と次々持ってきた。

成果

- ・ゲームを通して、親子、子と子、親と親の交流が図れた。
- ・身近な自然の中で遊ぶ機会を得ることができた。
- ・近くにあっても気づかなかつた多くの自然を発見でき、改めて地域の自然の豊かさを確認できた。
- ・日ごろ、なかなか外へ出かけられない親子も、安心して森の中を散策できた。
- ・ネイチャーゲーム指導者が案内することで、保育所の先生方も一緒に楽しむことができた。
- ・親が知らなかつた子どもの姿を見ることができた。

課題

- ・当日でないと参加人数の把握ができなかつたので事前に班編制などを済ませて活動の時間に充てられるようにしたい。
- ・乳幼児や小さい子どもをもつ親も楽しめるように、スタッフを増やせると良い。
- ・親同士がもっと交流できるように、分かち合う時間をゆったり取ってフリーの時間を確保したい。

活動の様子



親子で「同じ物」を探す



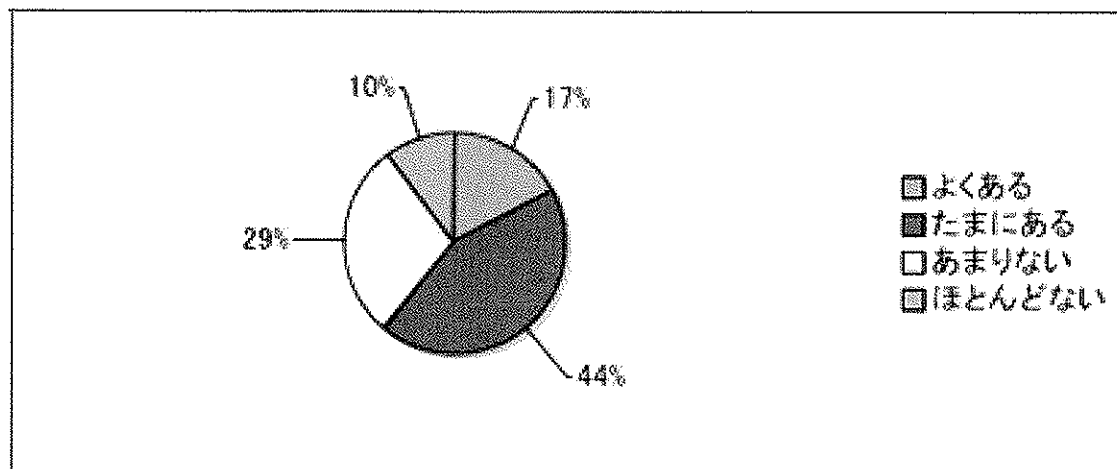
<森の色あわせ>わかちあい

2. アンケート集計

アンケート集計

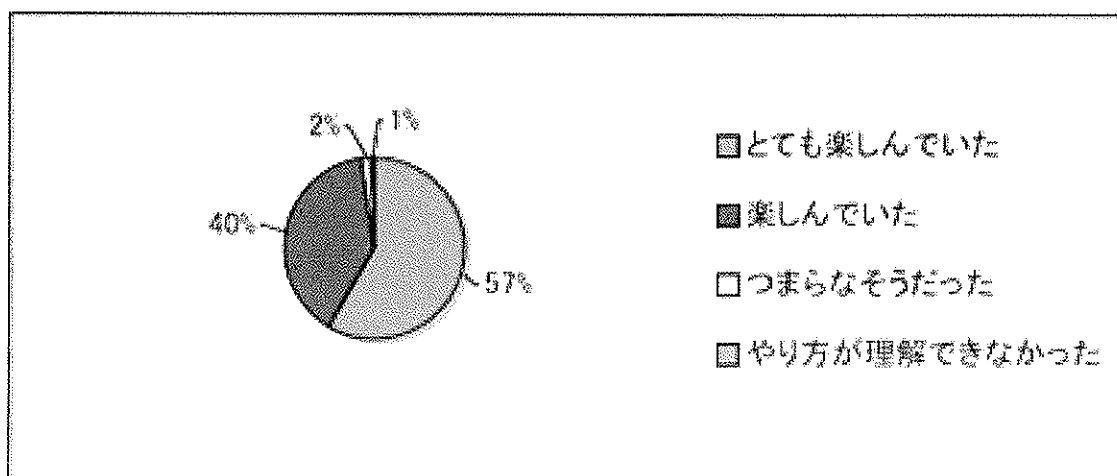
Q1) 普段の生活の中で今回のように自然の中で親子一緒に遊ぶ機会がありますか？

よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない
56	142	94	33



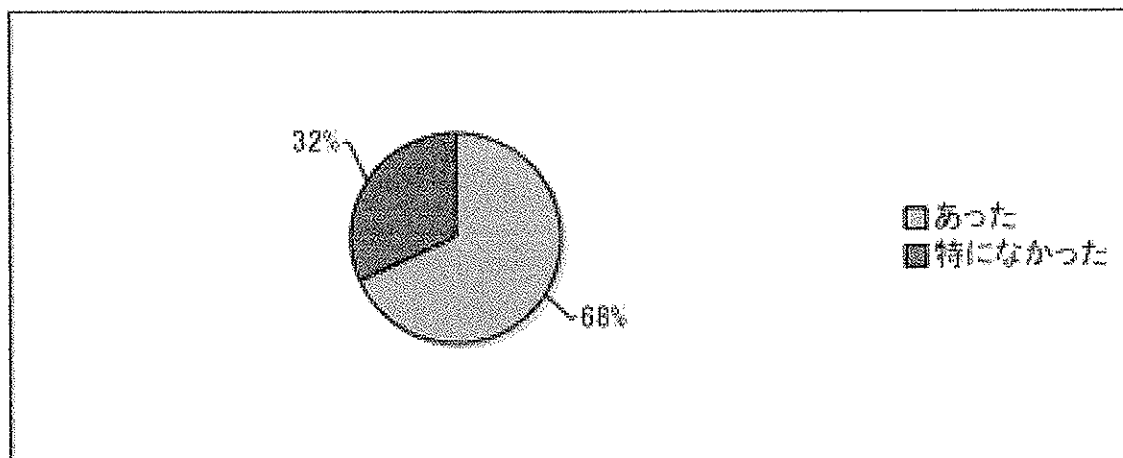
Q2) プログラムを体験しているお子さんの様子はいかがでしたか？

とても楽しんでいた	楽しんでいた	つまらなそうだった	やり方が理解できなかった
189	128	5	2



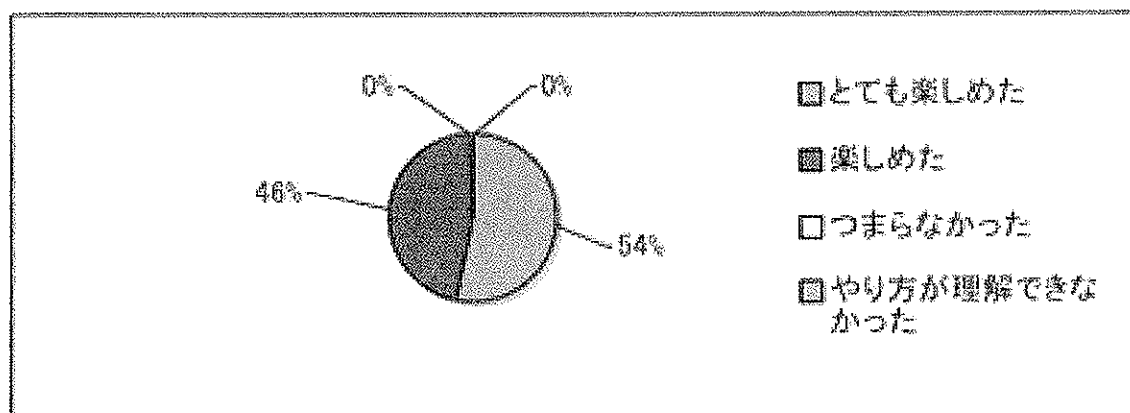
Q3) お子さんの様子で普段見る事のできない(表情や動き、言葉など)はありましたか？

あった	特になかった
217	100



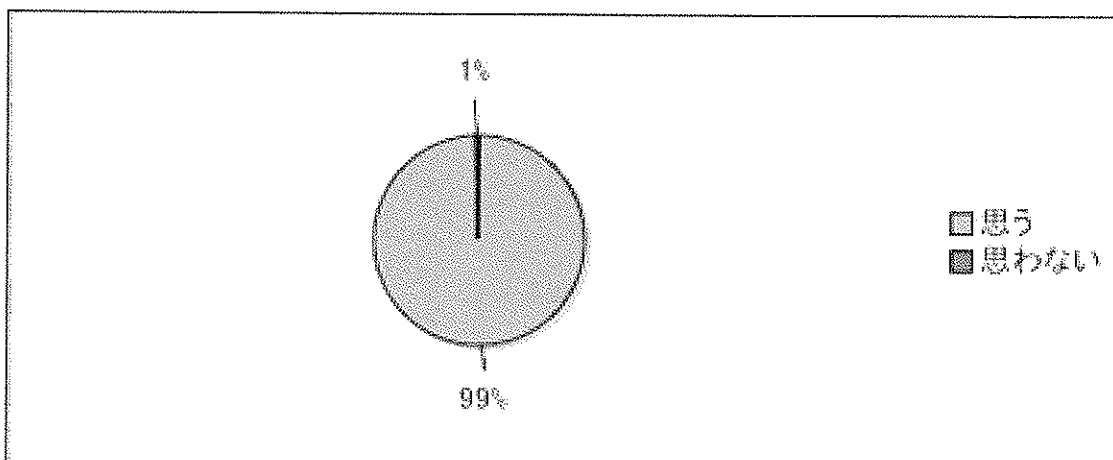
Q4) プログラムを体験した保護者自身の感想をお聞かせください。

とても楽しめた	楽しめた	つまらなかった	やり方が理解できなかった
166	145	1	0



Q5) 親子間や保護者間のコミュニケーションを深めるための機会として、
今回のようなプログラムは有効だと思いますか？

思う	思わない
321	2



参考資料

参加者募集用チラシ

助成  **日本財団** The Nippon Foundation この事業は財団の交付金による日本財団の助成金を受けて実施します。

「親子の絆、地域との絆を深める」体験プログラムモデル事業

親子で楽しむ ネイチャーゲーム教室

参加者
募集中!



*写真はイメージです。地域ごとに
実施される活動は異なります。

主催 社団法人日本ネイチャーゲーム協会  NATURE GAME

平成 21 年度 日本財団助成事業
「親子の絆、地域との絆を深める」体験プログラム事例集

発行日 平成 22 年 3 月

発行者 社団法人日本ネイチャーゲーム協会

編集 社団法人日本ネイチャーゲーム協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-20-13 花園公園ビル 1F

TEL 03-5363-6010

FAX 03-5363-6013

E-mail jimukyoku@naturegame.or.jp

URL <http://www.naturegame.or.jp>

この事例集は競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて作成しました



地球と遊ぼう。
自然と話をう。

NATURE GAME®